

輝 ねむろ

We Love Nemuro!

「受賞できるとは夢にも思っていなかったので、とても驚いています。」と、はにかんだ表情で受賞の喜びを語るのは、根室市観光協会が、平成18年度から実施している「根室フォトコンテスト」で、平成23年度最優秀賞を受賞した松倉毅さんです。

松倉さんは6年前から趣味で自然などの写真撮影を始め、今回、3度目の挑戦となる根室フォトコンテストへの応募で、応募総数128点の中から最優秀賞に選ばれました。受賞した作品は、昨年10月に夕暮れ時の風蓮湖を撮影した作品で、水際を歩くツルを

夕日が水面に映し出すラインと重なる瞬間を狙った一枚。「横に写る白鳥がつかいだったらさらに良い作品になった。」と、撮影当時の様子を語り、写真に対するこだわりを見せる松倉さん。「今まで撮った写真一枚一枚に思い出がある。根室ならではの迫力ある大自然や動植物を捉えていきたい。」と、これからの意気込みを話していました。

今回受賞した作品は、根室観光協会が発行しているポストカードなど、根室の観光PRに使用され、根室の市民の皆さんはもちろん、全国へと発信されていきます。



写真で伝える根室の魅力



最優秀賞を受賞した作品「夕彩」

profile まつ 倉 毅 さん

「2011根室フォトコンテスト」最優秀受賞者

1961年根室市生まれ。専門学校卒業後、実家の板金店を継ぐ。写真サークル「写団ねむろ」と「写るんです」の会員を務める。

千島桜を望む窓

市長室のカレンダー

7月3日、ロシアのメドヴェージェフ首相が、本人にとっては平成22年11月以来2回目となる国後島を訪問したことに、大きな反響がありました。これを受け、「北方領土返還運動原点の地」である根室においても「このようなロシア側の一方的な行動によって、幾度となく繰り返されてきた領土交渉が停滞することは認められない。」と、強い怒りを示し、長谷川市長をはじめ、6人の各界の代表者が北方領土問題の早期解決を訴える要望書を手にも、首相官邸と外務省を訪れました。

前回、メドヴェージェフ首相が大統領として国後島を訪問した際は、元島民や返還運動関係者が納沙布岬で緊急集会を開いて抗議の意を表し、また、当時の首相であった菅前首相がロシア側を厳しく批判したことなどから日ロ関係が険悪化したという経過もあり、今回は領土交渉の停滞を懸念して「静かな抗議」にとどめ「北方領土がロシア側に事実上占拠されている現実を再認識していただき、北方領土問題の早期解決に向けた粘り強い外交交渉を積極的に進めてほしい。」と、齊藤内閣官房副長官と山根外務副大臣に要望書を手渡しました。

この要請に対して国からは「政府としても考え方は皆さんと同じであり、領土交渉を停滞させてはならないと考えている。北方領土問題の解決に向けて粘り強い交渉はもちろん、力強い交渉を進めていきたい。」と、積極的な外交の推進に決意が示されました。

